

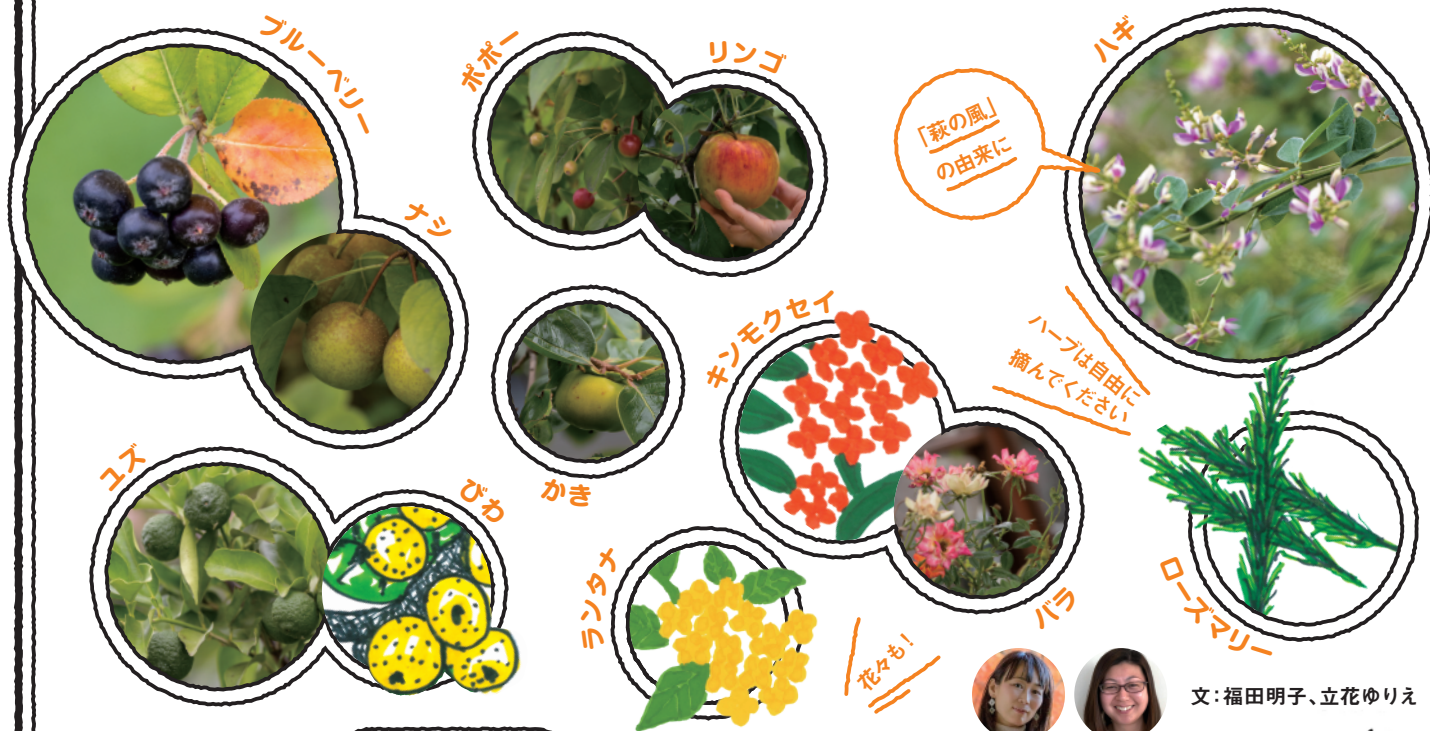
ライフの学校新聞

Vol.2

2022年
秋冬
あき・ふゆ 号

秋冬の嫁入りの庭

誰でも利用できる「嫁入りの庭」では、秋から冬にかけてさまざまな樹木が実をつけます。おやつや冬至のときの柚子風呂などにして季節を感じています。施設名にもあるハギ(萩)も赤紫色や白色の可憐な花を咲かせます。花言葉は「柔軟な精神」。何事にも柔軟に対応し、いろいろなことを吸収できる場所になればと思います。



文：福田明子、立花ゆりえ

先輩レシピ！

すみさんのおはぎ



あんこは前日仕込み！
「昔は小豆一升、もち米一升炊いて振る舞ったんだ」とすみさん。

- ① 小豆は前日に煮る。水が完全になくなる前に火を止める
 - ② 食べる日に砂糖と塩を少し入れてかます(かき混ぜる)
 - ③ もち米を炊いて少しついたら、ながちろく(俵型)にする
- * 食べる直前にあんこをつけるのが、すみさんの地元・山形県・小国町流



文：高橋彩香
柴田英美

ゆきちゃんめいちゃんの日々

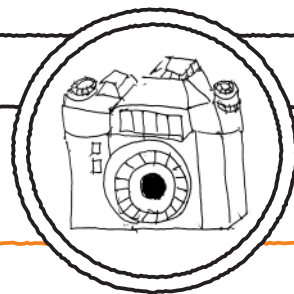
嫁入りの庭の北側にいる2匹のヤギ。青い首輪はちよっぴりやんちゃん、赤い首輪はおっとりやさしいゆきちゃん。2021年4月にライフの学校に仲間入りしました。最初はおびえていましたが、いまではすっかり地域にもなじみ、アイドル的存在になっています。



文：畠山待子



写真：阪本勇



かね こ よ さく はる え
金子與作さん・春江さんの一枚

おしどり夫婦のデュエット

はぎ
萩の風の
ロミオとジュリエット。
手を取りあって
いままでも、これからも

金子與作さんと春江さん。
萩の風キャンパス内で、
おしどり夫婦として有名な2人。
そんな2人はどのような人生の
物語を紡いできたのでしょうか？



カラオケを楽しむ若き日の春江さん(左)と與作さん(右)

こい わた ぶね
恋の渡し船

2人の出会いについて與作さんに単刀直入にきくと、答えはズバリ「出会ったのは田んぼだ」とのこと。與作さんが10代のころ、住んでいた荒井の近所の農家に手間取り(アルバイト)で来ていた春江さんに一目ぼれ！その後、春江さんの実家がある岩沼市へ渡し船で川を渡って通い詰め、口説き落としたそうです。與作さんいわく「春江を口説くまで2~3回は通ったな。渡し船の代金は5円(現在の50~100円)だった」とのことでした。

さい ににんさんきやく ひ び
19歳で起業、二人三脚の日々

結婚後、與作さんは19歳という若さで自ら建設会社をおこし春江さんが経理として支えていきました。朝から晩まで懸命に働いたという2人に「大変でしたか？」と聞くと「んだなあ」と與作さん。春江さんも「んだ。大変だったんだよ」と、苦労したようです。それでも徐々に会社が安定し、毎年のように社員旅行に行けるようになり、春江さんは「北海道も沖縄も行ったんだよ」と楽しそうに振り返ります。ライフの学校の嫁入りの庭にある石には、2人の会社が管理する富谷市の採石場から預かったものも。運び入れの際は2人も同行しました※。

しんざい
震災、そして

東日本大震災のあった日、與作さんは前述の採石場で、春江さんは若林区荒浜の事務所です仕事をしていました。震災により現場や機材は壊滅的な被害を受け、與作さんは「もう仕事はだめだと思ったんだ」と仕事から退かれたそうです。そんな山あり谷ありの2人の人生ですが、いまはライフの学校で平穏なときを過ごしています。別のフロアにいるためお互いに「毎日会わなくなったからいい」と言いつつも、会えば手を握り合う。そんなおしどり夫婦とこれからも楽しく過ごしてまいります。



※嫁入りの庭への雄勝石(おがついし)搬入の様子

金子與作さん
春江さん

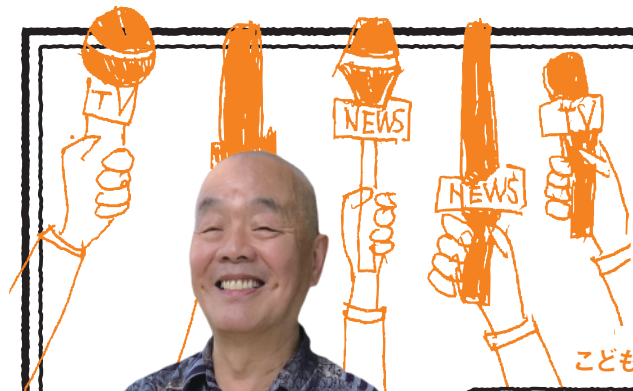
金子與作さんは1937年3月10日、仙台市若林区荒井に8人兄弟の4番目、次男として生をうけました。幼少期は野球や卓球が好きな活発な少年だったとのこと。春江さんは1938年1月31日、岩沼市に生まれました。3人兄弟の真ん中で、上にお兄さん・下に妹さんがいます。昔はバレーボール競技をしていて、與作さんと同様に活発だったそうです。



聞き手：佐藤航



文：板垣浩太



このまち インタビューVol.2

うじ いえ ひで きち

氏家秀吉さん

寿司職人



子ども食堂には、どんな想いで卵焼きを差し入れてくださっているのでしょうか？

おいしいものを食べたときは、大人も子どもも同じで笑顔になるからね。自分のつくった卵焼きでひとが笑顔になるのが一番。ボランティアは見返りを求めないことだと思うけど、自分も生きる元気をもらっているよ。東日本大震災で被災して、50日間避難所生活を送ってね。そのとき自分もお世話になったんだ。

氏家さんは、なぜ寿司職人になろうと思ったのですか？

20歳目前に、姉に連れて行かれた寿司屋ののれんをくぐった瞬間に「いらっしやい！」とむかえてくれた人がカッコよくてね。「ああ、おれは寿司職人になろう」ってそのとき決めたんだ。いまま現役時代から使っている卵焼き器でつくっているよ。これはIHじゃだめ。ガスじゃないとおいしくないから、家でつくって届けているんだよ。白身がちゃんと出たほうがおいしいから、卵を切りすぎないのがコツだね。生まれ変わってもやっぱり寿司職人になりたいね。たまたま自分は寿司をにぎれるから、この技術をこれからもいかしていきたいね。

このまちでお気に入りの場所はどこですか？

広瀬川灯ろう流しの花火はよかったね。あのお祭りは歴史があるんだってね。戦後から続いてるって聞いたよ。そのほかだと、ご縁もあるし、強いて言えばライフの学校さんかな(笑)。



1945年、福島県川俣町生まれ。20歳のときに寿司職人を目指して仙台へ。50歳まで、気仙沼など東北各地の寿司屋で働いた。2022年から、毎月子ども食堂に30人分の卵焼きを届けてくれている。



聞き手・文：渡辺果南

みんなのおたより



お母さんと一緒に仕事に来るあおいくん(7歳)と、就労支援センターに通う阿部さんは絵手紙を送りあう仲。最初は見ていただけだったのが、「僕も阿部のおじさんと一緒に描くね！」と交換するように。12通に上るあおいくんの絵手紙の一部を見せてもらいました。



文：高橋香織
佐藤優樹

ここで何する？ 会議

ライフの学校でやりたいことや使い方を一緒に考えてみませんか？植物が休んでちょっと寂しくなる冬の庭でやりたいことを、スタッフやパートナー(利用者さん)と考えました。

冬の庭で何する？

近所にイルミネーションスポットがないのが残念……。ランタンは瓶や紙などの廃材を使って好きなように飾ることができるので、個性が出て、誰もが楽しめる庭になるはず！(管理栄養士)

おもちやき
榛川登喜子

お餅にお醤油つけて、海苔を巻くの。網の上で焼いて、みんなで食べたらいよいよね。(パートナー)



文：遠藤悠美
佐々木亜優美

ライフの学校とは

ふくし しせつ ちいき
福祉施設を地域にひらき、さまざまなひとが集う「学
びあいの拠点」にしている社会福祉法人です。現在は、
はぎ
萩の風キャンパスのほかに沖野・上飯田・幸町の全部
で4つのキャンパスと畑があり、高齢者福祉、障害者
福祉を中心にさまざまなプロジェクトを行っています。

はぎ
萩の風キャンパス せんだいしわかばやしつかみいいたあざてんじん
仙台市若林区上飯田字天神1-1

【利用案内】 ※どなたでも利用できます

よめい
嫁入りの庭 入居するパートナーと一緒にかつての嫁入り道具のようにやってき
た家具や植木のある庭。ベンチには電源も。出入り自由。

24時間365日(年中無休)

ライフの図書館 福祉や地域の図書が並び、自習室としても利用できます。

時間＝9:00-18:00(金曜は15:30まで)

だ が し
駄菓子屋「かみふうせん」 看板猫のふたもお待ちしています。

時間＝10:00-16:00(年中無休)

しよくどう
こども食堂「おかえり」 嫁入りの庭でとれた野菜も使用した料理は好評！

日時＝第3土曜、12:00-14:00

そのほかのイベント ウェブサイトでご確認ください。



社会福祉法人
ライフの学校
https://gakkou.life

氏家さんの
卵焼きが
食べられます！



写真：阪本勇

編集後記

かじつ
秋の庭は果実がたくさんなり、実りの秋でした戸 福田
庭を探索(?)中、蜘蛛の巣に引っ掛かり虫に刺される…… 立花
すみさんは、今年の誕生日におおはぎをつくると仰っていました！ 柴田
手間暇かけたおはぎ。話を聞くだけでおいしそう～！ 高橋(さ)
つね きようみしんしん と くろう はたけやま
常に食べ物に興味津々のめいちゃん。写真を撮るのに苦労しました。 畠山
おきなわ さかなもどめ わらい
北海道も沖縄も行きたい！ もちろん酒と肴を求めて(笑)。 佐藤(わ)
萩の風のロミオとジュリエットの恋の軌跡、素敵ですね！ いたがき
うじいえ たまごや さい むすめ だいす
氏家さんの卵焼き、4歳の娘も大好きです！ 守

すし むらまつ
氏家さんの話を聞いたらお寿司が食べたくなりました…… 村松
あおいくんあべ
と阿部さんのやりとりにはほっこりしました。 たか
年代を超えた交流をもっと増やしていきたいです。 佐藤(ゆ) 高橋(か)
わたしは雪を見ながらパートナーと鍋パーティーがしたいです！ えんどう
素敵な意見がたくさん！ 冬の庭で楽しく過ごしましょう！ ささき
地域に求められる新しいキャンパスの開設を目指します！ おかもと
次号は春の予定です。春らしいフレッシュな内容に乞うご期待！ みつや
三津谷

ライフの学校新聞 Vol.2 2022年秋・冬号
発行日：2022年11月6日
発行：社会福祉法人ライフの学校
宮城県仙台市若林区上飯田字天神1-1
022-289-8555

発行人：田中伸弥[ライフの学校]
編集：菅原篤人+村松直美+守安里沙+三津谷涼+福田明子+立花ゆりえ+柴田英美+高橋彩香+畠山待子+佐藤航+板垣浩太+
高橋香織+佐藤優樹+遠藤悠美+佐々木亜優美+岡本雄輔[ライフの学校]、川村庸子、佐藤恵美
デザイン：阿部航太
イラストレーション：阿部貴志+菅波あけみ+菅原千晶[ライフの学校]

お知らせ

かすみめ
霞目キャンパスの地鎮祭を
と おこな
執り行いました！

2023年4月のオープンに向けて、9月に地
鎮祭を行いました。1階のカフェ(就労継続
支援センター)では、近所にある農福連携
地の田んぼや畑で収穫した野菜の販売や、
その野菜を使ったメニューを考えています。
2階のシェアハウス(職員宿舎)に住むイン
ドネシアの技能実習生は、日々、日本語と
介護の勉強をがんばっています。

ろくごう
六郷キャンパスの
地域住民説明会を行っています。

2023年度中にオープン予定の六郷キャン
パスでは、福祉サービスのほかに、駄菓子屋や
無料学習支援教室も運営します。3回目の地
域住民説明会では、地域のみなさんの場所
になるために、事業計画の説明だけでなく、
意見交換を行うワークショップを開催したい
と思っています。回覧板や掲示板などでお知
らせしますので、ぜひご参加ください！



六郷キャンパス模型(設計：トミター・テクチャ)